
ナキサケブ

要徹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナキサケブ

【Zマーク】

Z33040

【作者名】

要徹

【あらすじ】

「　　この声は一体何なのだ

最近、どうも夜は寝苦しい。

もう直に秋となるというのに熱帯夜が続くし、交通量が多い場所に住んでいるからか、車の音が絶えない。特にバイクの音は凄まじい。

それでも、深夜になればそれらの騒音は落ち着いてくる。完全な静寂に包まれるその時が、丁度良い眠りのタイミングなのだが、最近 といつてもかなり前からだが はその静寂すら訪れない。

おかげで、私は不眠症だ。

不眠症の原因は分かつている。何でも昔、私が住んでいる団地の近くにある幼稚園で大量殺人が起こったらしく、この辺りには子供の靈が多く浮遊しているという噂がある。私は、静寂を阻害する要因を幼稚園で殺された靈の泣き叫ぶ声なのだと考えている。つまり、靈の仕業で眠れぬ日々を過ごしているということだ。いや、私だけではない。付近の住民もそう考え、ずっとそれに悩まされているのだ。

布団に包まって騒音が去るのを待つと、今日もまた、子供の泣き叫ぶ声が聞こえてくる。その声は闇を切り裂き、周囲に響き渡つていぐ。誰の耳で聞いても不快なことは間違いないが、騒音と違つて、これが靈の仕業だとすれば、何を言つても無駄だ。この付近の住民たちも、これが靈の声なのだと黙つているからだろう。誰も苦情なんて言わないし、誰に相談するということもない。一度「これはお化けの仕業なんだ」と口にすれば、狂人というレッテルを貼られてしまう。そんなこと、誰が望むだろうか。

恐怖に身を震わせ、息を殺して、じいつとして、ただただ、これから殺されると言わんばかりの痛烈な声を聞いていると、背中が粟立つてぞわぞわとして、全身から血の気が引いていくようだ。あまりの恐ろしさに体は硬直し、木偶人形のようになる。

一体、幼稚園で起こった殺人事件はどれだけ凄惨なものだったのだろうか。ここに漂っている靈や、この悲痛な声を聞くと、それがいかに凄まじかったのか、想像に易い。

胃の内容物をぶちまけそうな気持ちに一時間程耐えると、その声は嵐が過ぎ去ったかのようにぴたりと止んだ。

私は途端に緊張が解け、一瞬のうちに夢の中へ落ちていった。

翌日、付近の家が赤色灯に照らされ、妙に慌ただしかった。その日一日、多くの人が訪れてきて面倒臭いことこの上なかつたが、それ以来、子供の靈が泣き叫ぶことはなくなった。

それにもしても、あの靈は、あの声は一体何だったのだろうか。今では、そのことを考えて眠れない夜が続いている。

(後書き)

さて、声の正体は何だったのでしょうね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3304o/>

ナキサケブ

2010年10月15日21時16分発行